



洋上での専用船による風力発電施設の施工



ブレード(風車の羽)の組み立て作業

安全への意識が高まる

受講生は、風車のメンテナンス業

らに救命いかだに乗り込む訓練へと続きます。洋上では陸地と違い、救急車がすぐ近くまで駆け付けることはできません。救助が来るまで生き延びるため、知識と技術を身に付ける訓練が必要となります。

トレーナーの皆さんは指導で心がけていることについて、「洋上風力作業にはどのような危険が伴うか、実際の事例を交えながら具体的な対処法を伝えます。基本的なトレーニングであっても、実践に役立つ知識を確実に習得してもらえよう全力を尽くします」と力強く語ってくれました。

務に携わっている人から、「会社で洋上風力発電のチームに配属になった」「転職して風力発電に携わることになった」など初めて風車に触れる人まで、年齢も背景もさまざまです。皆さんに訓練を受けた感想を伺うと、「自分の身は自分で守るという意識が高まりました」「実際の海はもっと危険だと思うので、それをイメージしながら取り組んでいます」「海でパニックにならないよう、この機会に普段はできない経験を積んでおきたい」などと答えてくれました。また、この認証は2年ごとに更新する必要がありますが、7人中2人が前回は九州で受講したとのこと。「近くにトレーニング施設ができて受講しやすくなった」「設備が新しく



①この日は7人が参加。世界基準のトレーニングがおこなわれる ②水上での高所作業訓練 ③風車から海に避難したことを想定。ヘリコプターから発見しやすい隊形をとる ④トレーナーが丁寧に指導 ⑤救命いかだに乗り込む洋上生存技術訓練

命を守るための知識と技術

さあいよいよ訓練施設の見学です。

「GW認証の訓練を目的としてゼロから立ち上げた施設は、国内初です。訓練用のはしごやプールなどすべてをワンフロアに配置し、動線や備品の保管場所にまでこだわって設計しました」

日本には現在、GW認証の訓練施設が10カ所ほどありますが、その中でも受講しやすい施設であることが同社の強みとなっています。

「神栖は東京から近く、成田空港からも車で約50分とアクセスが便利のため、北海道から沖縄まで日本全国から受講生が集まります。また、基本的なプログラムは座学と実技を4～5日間かけておこないますが、座学をオンライン受講にすることで出張日数の負担を減らしました。オンライン受講が認められたGW認証施設は、国内唯一です」

受講のハードルを下げて人材育成を進めることで、日本全体の風力発電に貢献したいと小松崎さんは考えています。

日本で一番、選ばれる施設を目指す

私たちが見慣れた神栖の風車は高さ約60メートルですが、海外では高さ200メートルの風車もあるそうです。発電効率を上げるため、今後は風車が大型化していくと考えられています。地上ならスムーズにできる作業も、高所ではとても同じよう

にはできません。そのため、安全訓練の重要性はますます高まっています。ウィンド・パワー・トレーニングセンターは年間10000人を受け入れることが可能で、収容能力の面でも日本最大規模です。

最後に、小松崎さんに今後の抱負を聞きました。「今や神栖市は、日本を代表する洋上風力発電の集積地であり、安全教育の施設もあって当然です。風力発電の作業員は再生可能エネルギーのインフラを支える人材であり、メンテナンスはなくてはならない仕事。私たちはこの地で、日本で一番選ばれるトレーニングセンターを目指していきます」

「風車の街」神栖にさらなる追い風が吹き、人材育成の先進地として全国から注目される日も遠くなくさうです。

